

2015年度「新入社員・初心者のための新聞印刷技術の基礎知識講座」 —紙面の品質向上とコスト削減のための資機材の理解を深める— 印象記

越 智 隆*

Takashi OCHI*

(一社)日本印刷学会コミュニケーション委員会主催による「新入社員・初心者のための新聞印刷技術の基礎知識講座」が2015年7月3日(金)9:30~17:25、日本印刷会館2階大会議室にて開催された。講演内容としては6演題を企画し、47名の聴講者に参加頂いた。

演題1. 新聞紙面の色表現の基礎知識

サカタインクス(株) 中部育美氏

例年、演題1はトピックスとして講演内容を変更しており、今年は色表現についての講演を企画した。色とは何か、そして人間の目がどのように色を捉えているのかの根本的な話から、色の表現方法(数値化)、さらに光源の違いによる色への影響や錯覚しやすい色の組み合わせなど、色に関する基礎的な話を平易な言葉で丁寧の説明頂いた。実際の新聞印刷の色表現については、カラー印刷の基礎となる減法混色の原理、新聞カラーの標準化としてJCNとNSACの違い、新聞印刷に適した色づくりで欠かせない印刷物の定期診断と管理法について講演され、新聞印刷品質における日常管理の重要性を理解させる内容であった。なお、新聞は朝の太陽光下で読むのがもっとも良い条件とのことであり、今後も多くの方々に休日朝の至福の時間を新聞とともに過ごして頂きたい。

演題2. 新聞輪転機の基礎知識と最新情報(デジタル印刷)

(株)東京機械製作所 秋山定靖氏

『短時間』で『大量』に『安定』して印刷する、さらには近年より高い紙面品質も求められる新聞輪転機について、その駆動方式や構成(給紙部、印刷部、レールフレーム部、折部)を分かり易くかつ詳細に説明された。突発停電時に紙を切らずに輪転機をスムーズに停止させるシステム等多くの技術が紹介され、初心者だけでなく、より一層理解が深まる内容だったと思う。また、最新技術としてデジタル印刷機による新聞印刷の紹介、およびここ数年で

導入された国内および海外新聞社の稼働状況の紹介があった。バリエーションな印刷が可能であり、より地域に密着した、あるいはまた、より個人の嗜好に合わせた小部数印刷であり、今後の新聞印刷の一つの方向として動向を注目したい。

演題3. 新聞印刷ブランケット・ゴムローラーの基礎知識と最新情報

(株)金陽社 越路文夫氏

印刷時に紙と直接接触するブランケットおよびゴムローラーの構造や役割、その選択のための各種物性の印刷への影響について分かり易く説明があった。特に、印面に影響を与える表面ゴムの粗さ、パイリングに影響する表面ゴム特性、紙送りに影響するバジルと圧縮層の関係など、数あるブランケットの中から選択する際に参考になる解説が多くあった。また、ブランケットの胴への締め込み方法、メンテナンス方法、保管方法の説明もあり、実際に使用する上で有用な情報が数多くあった講演だった。

演題4. 新聞印刷用CTPの基礎知識と最新情報

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)

鈴木史敏氏

画像を再現するための網点の基礎知識紹介から始まり、CTP版の感光層による違い、印刷品質や耐刷性を向上させるためのプレート上の凹凸構造である砂目の設計に関する考え方等、CTP版材の基礎知識を学ぶことが出来た。さらに、印刷現場で想定されるトラブルシューティングや刷版(生版)の保管方法など、実際に即した幅広い内容が紹介された。最新情報として、合紙レス化、高感度化、高耐刷化を実現するための新技術紹介も加わり、有益な内容をお分かり易く講演頂いた。

演題5. 新聞印刷インキの基礎知識と最新情報

サカタインクス(株) 森富士雄氏

新聞の高速オフセット輪転印刷だけでなく、印刷方式ごとに求められるインキ物性の違い、オフセット印刷でも枚葉と輪転で異なる印刷全体のインキ物性について紹介があった。またインキ成分、製造法については詳細説明があ

*日本製紙(株) 研究開発本部
(〒114-0002 東京都北区王子5-21-1)

り、さらにタックや流動性など重要なインキ物性の具体的な測定方法について丁寧な解説があり、初めてインキを評価・使用していく初心者にとって大いに役立つ内容だった。

演題 6. 新聞用紙の基礎知識と最新情報

日本製紙（株） 山田喜威氏

初めに紙とは何かから始まり、その原料である木材から各種工程を経て新聞用紙ができるまで順を追った内容に加え、最近の新聞用紙抄造では幅が8mを越え、速いものでは時速約100kmで製造されており、その規模感が分かり易く紹介された。また新聞印刷技術の変遷や原材料事情などの環境変化への対応として、新聞用紙も大きな変化を遂げていることについて、研究開発や紙製造現場での材料、設備などの周辺技術開発を含めた盛り沢山の内容が講演された。毎朝、新聞が配達され手にしているが、その日々の生活の中で新聞用紙がこれほど変化していることには気が

付かないのではないだろうか。新聞印刷の高画質化とともに新聞を取り巻く技術には大きな技術革新があったことを理解頂けたと思う。今後も新聞用紙の品質安定化のために、各種計測装置による操業中の品質管理を徹底するなど安定供給に向けた取り組みを進められることが最後に紹介された。

以上、6講演を通して、新聞印刷技術の基礎知識を得られる貴重な機会を提供できたと考える。また本講座は新聞印刷に関する基礎技術から最新情報までの内容であり、本来対象としている新入社員・初心者の皆様だけでなく中堅や高い経験を持った方も知識のブラッシュアップをする上でも参考になる場ではないかと再確認した。来年もタイムリーなトピックとともに本講座を計画する予定であり、多くの参加をお願いし、印象記と致します。